



## 対話から未来を一みらいフォーラム2010報告

教授 高田 実

2010年12月2日(木)、「市大みらいフォーラム2010」が開催され、60名を超える教職員、学生、高校の先生が参加しました。今年は講演会、学生との対話、ティー・パーティの三部構成でした。第二部については、学生が自ら企画し、ポスターも作り、自分たちですべてを運営しました。初の試みでしたが、学生の組織力、運営力を強く印象づけられる結果となりました。

第一部では、安永悟氏(久留米大学教授)に「初年次教育の課題と方法」と題し、1年生に対する教育がいかに重要か、わかりやすくご講義いただきました。特に、「協同学習」という視点とともに学ぶことの重要性、学生どうしの対話を組み入れる方法の有効性を理解することができました。

第二部は、「大学が変わる、あなたも変わる」をテーマに、学生が討論を組織しました。議題は「高校と大学の違いについて」と「どんな授業を望むか」の二つでした。班別討論の後、全体会を開きました。時間不足で、突っ込んだ議論はできませんでしたが、学生が何を感じ、望んでいるかについて、知ることができました。

第三部では、教職員と学生が打ち解けた雰囲気の中で自由に議論を交わすことができました。授業改善への思い、大学に望むこと、日頃の不安などを、学生が教職員に自由にぶつけている姿が印象的でした。

学びの主人公は学生です。その学びをサポートし、学生の知的関心に応えるために、何をなすべきか。それを考えるための重要な対話の場を設けることができました。まずは、本音で語り合うことです。モノログでも、単なる会話でもない、対話の中から大学を変える新しい動きが生まれます。



## 「みらいフォーラム2010」ポスター制作を通して

経済学科2年 佐々木 菜摘

今回、FD活動に参加させてもらったきっかけはおそらく他のFD委員の皆さんとは異なり、また、動機もかなり曖昧なものでした。初めてこの企画に縁ができたのは、友人である谷口君の「ささき〜、ポスター描くことになったよ」の一言からです。ほとんどわからない状況ではありましたが、巻き込まれる形でFD活動に参加しました。この頃は、「ポスターだけ描けばいいのか」くらいの認識であったため、企画の中心として活動することになるとは思っておらず、頭数に数えられていることを聞き、ずいぶん驚いたことを覚えています。

実際に運営にかかわるなかで、FDに関係している一人ひとりが、「どうすれば学校をよりよくしていけるか」に真摯に取り組んでいることがわかりました。そういった真剣かつユーモアに溢れた人たちに関わることで、自分も手伝いたい、仲間になりたいと思い、改めてFD活動を成功させたいと思いました。

今回のポスターのテーマは、生徒がなじみのあるノート、校舎などをモチーフにして、できるだけ明るく、面白くなるように配置しました。手前の女の子にはメガフォンを持たせて、「主張」することをイメージし、うしろのハートで、全部をひとつにまとめていこう、というメッセージをこめたつもりです(下図参照)。文字入れやトリミングを指導、協力してくれた平岡君と、キレイに印刷してくれた事務の方々には、本当に感謝をしています。

今回の企画については学生のFD活動を様々な人に知ってもらおうという意味では成功だったと思います。しかしまだ課題は残っているので、これで満足することなく、これからもみんなで頑張っていきたいです。



## 学生自主研究発表

### ●中国経済福祉文化研究会

国際商学科3年 久保 智

私は中国経済福祉文化研究会に参加し、中国をより身近に感じようになりました。またこの研究会のメンバーは生徒だけでなく、中国人留学生や中国をテーマに研究されている先生方も参加されていたので様々な立場の方の意見を聞くことができました。

研究会では各個人が発表を行い、私は「中国の映画産業」について発表しました。調べるにあたって、ネットや書籍だけでなく留学生の意見も取り入れました。彼らと意見交換をすることで、中国だけでなく日本についても考えるきっかけになったように感じます。

やはり中国と日本は経済・福祉・文化の面で大きく異なり、これらはその土地の慣習や背景が大きく関係していると思いました。現在中国は大きく成長を遂げて注目されています。そんな中国について一足先に得た知識は、今後社会に出た際の大きな武器になると確信しています。

これからは中国経済福祉文化研究会以外でも、自ら関心を持ち、多面的に中国について研究をしていきたいと思います。また中国だけでなくとどまらず、アジア各国との関連性を学ぶことが今後の課題です。



### ●中国経済福祉文化研究会開催のきっかけ

准教授 難波 利光

中国経済福祉文化研究会は、学生が中心になって中国について知ることを目的にしてみました。本研究会を始めようと思ったきっかけは2つあります。

一つ目は、近年、中国は著しい成長をとげており、日本経済に対しても中国を知ることが重要になっている点です。私は、中国の経済面だけではなく、福祉や文化の面を知ることが中国を知る上で重要であると日頃から感じていました。それは、中国市場からの日本企業撤退要因として社会環境や人的トラブルによるものも多いと聞いたからです。

二つ目は、本学学生の外国に対する意識の高さの点です。最近の日本人学生は、留学したいと思うことが少なくなっていると聞きます。しかし、本学学生は、海外や留学に関心を多く持っているように思います。留学経験は、日常生活から海外文化に接し、さらに、経済学部の学生としてマクロやミクロの経済的視点を持ち、社会全体を見通せる能力を高められると思われまます。

本研究参加者は、留学経験を持っている学生が多く、現在の中国を学生1人1人が関心のある10余りのテーマに対して先生方の専門的なアドバイスや留学生の実体験をもとにした意見を交えて、みんなで考え議論する良い機会になったと思います。

### ●2010年度「共同自主研究」発表会報告

准教授 平山 也寸志

2010年12月20日(月)の16時30分から、A講義棟121および122教室にて、学生の共同自主研究発表会が開催された。

共同自主研究の開始年度は14年度であるが、学生が自らテーマを決めて、共同で調査・研究に取り組むことにより、主体的な学習意欲やコミュニケーション能力などを養うことを狙いとし、指導教員がつき、この成果には単位が認定される。この科目には昨年度から、研究発表会が開催されることとなった。

当日、121教室では荻野学長に、122教室では金子副学部長に、それぞれ開式の挨拶を頂いた後、各グループが研究発表を行った。各グループとも自主的に興味深いテーマを研究し、素晴らしい報告を行った。質問や意見も活発に出て、当初は18時30分終了予定であったがどちらの会場も30～40分延長された。121教室では金子副学部長に、122教室では荻野学長に、それぞれ閉会のご挨拶を頂き、発表会は閉幕した。

今年度は、14グループ54名の研究者であり、グループ数では昨年度から倍増し、飛躍の年となった。共同自主研究が更に着実に発展を続けることを祈る。



### 各グループの報告テーマ

1. 北浦沖合人工島「長州出島」に関する研究  
下関の人工島建設の経緯を調べ、活用法について検討する。
2. イギリス近代の文化と社会 -生活と芸術を中心として-  
食物、衣服、絵画、音楽の4点から文化の大衆化を考察。
3. イギリスにおける教育制度の歴史と現在  
イギリスにおける学校制度の歴史と現代の教育制度。
4. 日本の水の現状とバーチャルウォーター(仮想水)について  
バーチャルウォーターの概念を紹介し、水問題を検証。
5. 中国におけるITビジネス  
日中の違いを比較し、中国ITビジネスの今後について。
6. 日中の高齢者介護の意識に対する比較研究  
介護施設の需要が増える日中について調査し、比較研究する。
7. 中国のマナーと礼儀  
日本と異なる中国のマナーと礼儀を、ビジネスの観点から。
8. 仏教と社会貢献事業～広島の実業家・井東幸七を例に～  
慈善事業の一環として布教活動に注力した井東幸七について。
9. Twitterを活用した消費行動の分析  
Twitterの消費行動への影響を検証し、その可能性を探る。
10. 中国の道路事情とモータリゼーション  
急速な車の普及に法整備が遅れる中国の道路事情と今後。
11. 下関市の菊川地区における都市農村交流のこれまでの取り組みと今後の展望  
菊川地区都市農村交流の活動意義とグリーンツーリズム。
12. 介護職の労働条件について  
介護労働の実態を分析し、今後の方向性について検証する。
13. 地域開放拠点における下関市立豊北中学校の役割  
統合化され地域の生涯学習拠点になった豊北中学校の考察。
14. 依存症と大学生  
自分たちに身近な依存と、自己コントロールについて。

## ●共同自主研究報告会の感想

国際商学科4年 濱野 貴央

今回、共同自主研究の報告会に参加しましたが、各グループそれぞれの研究テーマに特徴があり、バーチャルウォーターやイギリスの文化、中国の礼儀など、普段あまり触れることのない分野に関する研究報告が多く、貴重な交流の場となり、今後の私達学生の研究にとって非常に有意義なものであったと感じます。特に、来年度からゼミでの研究を控えている私達グループの2年生にとって、今回の報告会は非常に良い経験となったと思います。なかでも、イギリスの文化に関する研究で発表された、イギリスには音楽のない時代があったという報告はとても意外であり、私の印象に強く残りました。全体の進行に関しても非常に良いペースで、職員の方や先生方のコメントが各研究の報告をより引き立てて下さり、各研究ともその特徴を活かすことができ、それぞれが充実した発表を行えたように感じました。

私達の報告に関しては、グラフの解説にやや不明確な点がありましたが、報告で伝えなかった内容に関しては十分に伝えることができ良かったと思います。今後はより分かりやすく正確に論文を作成することを念頭に置き、引き続き研究を行っていくことが私達の課題であると感じました。



## ●「中国のITビジネス」について

経済学科3年 川島 修一

私たちのグループは、近年目覚ましい発展を遂げている中国という国に興味を持ち、大学の中国人留学生と共に「中国のITビジネス」というテーマについて研究を行いました。そして、そのテーマから大きく「中国のインターネット利用状況」、「中国の巨大インターネットショッピングサイト『淘宝(タオバオ)』について」、「中国の携帯電話向けビジネスの動向」、「中国のITビジネスにおける発展と展望」という四つのテーマを決め、各自の調査と全体での会議を通して内容を深めていきました。

私は調べを進めていく内に、中国の経済発展のスピードの速さというものを実感しました。私たちはITという側面からの研究だけでしたが、IT普及率の伸びやそれに伴う経済発展への影響力は計り知れません。そして、留学生からの意見もそれを確信づけるものとなりました。まだまだインフラ整備や規制緩和という課題も残されていますが、今後中国のITビジネスは世界に影響を与えるものになることは間違いないと感じ、その産業を日本という国がどう活かしていくのかという所も注目だと思います。



## ■第2回中国語スピーチコンテストを開催しました

国際商学科1年 紀 祥龍

平成22年10月9日(土)に、第2回中国語スピーチコンテストを本学223番教室で開催しました。このスピーチコンテストは、「中国語」そして「中国」に関心を持つ方々を増やすことを目標に、私たち「中国語しゃべっちゃいな」が実行委員として昨年度より開催しています。

朗読の部、暗唱の部、弁論の部の3部門を設け、中国語初心者から上級者までが楽しく学習成果を披露し、相互に交流できる場を提供しています。本年度は、本学の学生はもちろんですが、下関市内の高校生から社会人まで計19名の方々が出場し、日頃の学習成果を披露し交流しました。

中国語は『声調』という声の上がり下がりがあり、日本人には発音が難しいと言われていますが、発表者のみなさんの声調はとてもきれいでした。

このスピーチコンテストを開催することができたのは、出場して下さった皆さんを始めとする多くの方々のご協力のおかげです。ご協力ありがとうございました。

来年もより良い中国語スピーチコンテストが開催できるよう頑張りますので、会場まで足を運んでください。



## ■第6回下関市立大学コリアンスピーチ大会を開催して

実行委員長 西川 博喜(国際商学科3年)

私たち下関市立大学コリアンスピーチ大会実行委員会は、「下関市立大学コリアンスピーチ大会」が多くの発表者、聴衆の方々の「知識修得」、「韓国・朝鮮語学習の一助」となり、また様々な情報を交換し合って、「日韓の交流をさらに深めていくこと」を目的としてこの大会を開催しています。

本大会も今年第6回目(平成22年11月24日実施)を開催することができました。今回も一般の方から中学生まで幅広い年齢の方に出場していただきました。出場者は朗読・暗誦・弁論の3つの部門で合計44名、取材の方や聴衆の方を合わせると100名以上が集まる大きな大会になりました。

今大会と第5回までの大会との大きな違いは、スピーチ大会の後援に釜山広域市が入り、3つの部門のなかで最も難易度の高い弁論の部の優勝者には「下関市長賞」と共に「釜山広域市長賞」が贈られ、副賞として釜山旅行も贈呈されたことです。

また、今年も多くメディアの方が取材に来てくださり、知名度も高くなったので、第7回大会ではさらに充実した大会になるように実行委員一同精一杯がんばります。

みなさん、今後も応援とご協力をお願い致します。



## 就職活動

## インターンシップ報告会

准教授 松本 義之

11月11日(木)16時30分から211教室において、学生・教職員・受入事業体関係者など約100名が参加して、インターンシップ報告会が開催された。報告会は、全体発表会と討論会の二部構成で行われた。

全体発表会では、インターンシップに参加した学生のうち、28名がPowerPoint等による報告を行った。国内・海外事業体で得られた貴重な就業体験についての報告があった。積極的に行動する事の重要性を学んだ、挨拶や言葉遣いが身につけていないことに気がついたなど、今後、自分自身を向上させるための課題が見つかったとの報告が多く聞かれた。また、参加していただいた受入事業体関係者からも、学生を受け入れる苦労もあったが、新しい刺激をもらった、今後も学生を受け入れていきたいなど、前向きなコメントが数多く寄せられた。

引き続き、報告書作成を指導した教員を中心に、5教室に分かれて討論会が行われた。学生の体験に基づいたインターンシップのあり方や、今後の改善の方向性などについて、活発な討論が行われた。



## 国内派遣 日本貿易振興機構(JETRO)

経済学科3年 中神 有理



私は、他の学生が参加した研修の情報も得られるだろうと、学内のインターンシップに参加しようと思いました。その中で日本貿易振興機構(ジェトロ)を選んだのは、授業でジェトロの資料を見て調べていくうちに、その職域の広さに魅力を感じたからです。

研修内容としては、職員の方からジェトロの組織・業務内容など実体験をもとに説明を受けたり、『海外進出企業総覧』を使って、山口県内の海外進出企業をまとめる作業をしました。その他、中小企業向けのセミナーの受付をしてセミナーにも参加させていただきました。ジェトロが中小企業の支援を行っているという現場を感じる事ができてとても貴重な体験になりました。

研修では、統計表を作るにしても見る人が見やすいようにまとめるなど、社会人としての立ち居振る舞い、物事に関する気配りの大切さを学びました。また、ジェトロは貿易に関する業務が主なため専門用語が多く、私の知識の少なさを感じ、貿易に関わる就職を考えるのなら、基礎知識を知っておくべきだと思いました。

職員の方には親切にいただき、多くの刺激を受け、充実した研修を行う事ができました。

## 国内派遣 三菱化学物流株式会社

国際商学科3年 原 跳馬



私が三菱化学物流株式会社のインターンシップへ参加を希望した理由は、「働くこと」について実際に業務体験・見学をすることで、より考えをクリアにする機会を得ることができるからです。

研修は8日間行われ、最初の3日間は東京本社にて会社概況や物流業界について説明を受け、人事部の仕事を手伝わせていただきました。

4日目からは中部支社へ移動し、実習を行いました。内容としては、陸運、海運、生産物流課の見学を行い、約2日間実際に営業部の陸運1課にて働かせていただきました。

今回、三菱化学物流のインターンシップで現場の業務見学や体験をさせていただくことで、いままではっきりとは持つことのできなかった「働くこと」に対する「意識」というものが大きく変化しました。また、一つ一つの作業が企業の成果に繋がり、かつ失敗にもつながるのだという「責任感の重さ」に対する「意識」についても大きく変化したと思います。

これから就職活動に取り組むにあたって、今回のインターンシップで得たものを最大限活かしていこうと考えています。

## 国際派遣 三菱商事(青島)有限公司

大学院 国際ビジネスコミュニケーション専攻 劉 曉琳

私は2010年の夏休み期間中に三菱商事(青島)有限公司でインターンシップをさせていただきました。コミュニケーション能力を向上させ、また日本の企業経営について三菱商事での実習を結びつけて深く理解していきたいと考えたからです。

三菱商事は食品から化学機械、エネルギーまで幅広い分野で事業を展開しています。青島事務所での研修でしたが、国際貿易の手続き、会社の内部統制などの講義を受けました。社員の方々が丁寧に説明してくださったおかげで、初心者私にも分かりやすく、とても勉強になりました。また、済南、泰安への出張に同行させていただき、会社の訪問や工場見学などにより、実際の現場で見聞きする機会を与えてくださり、私にはとてもありがたいことでした。

今回のインターンシップを通して、実際の業務を体験しながら、商社の機能と役割が理解でき、非常に有意義な時間を過ごさせていただきました。

また三菱商事での研修によって、卒業後、中国と貿易関係がある日系企業で働きたいと決めました。さらに日中の文化交流、ビジネス交流の力になるために頑張りたいと思います。





## 第49回馬関祭を終えて

第49代大学祭実行委員会委員長 **瀬口 和彦**(経済学科3年)

2010年10月、今年も下関市立大学馬関祭を無事に終えることができました。今年の馬関祭のテーマは「新～ GAMUSHARA～」でした。今年、本学の新校舎建設に伴い、昨年まで馬関祭の会場となっていた場所が使えなくなり、どのような形で馬関祭を開催することができるのか、実行委員、学校の方とたくさん話し合いを持ち、全く新しい形で、大学祭を開催することとなりました。

今回の馬関祭は、ご協賛をなかなか集めることができなかったこと、コンサートのチケットの売れ行きがあまりよくなかったことで、赤字を出してしまう恐れがありました。ですが、実行委員全員の開催直前までの粘りと、馬関祭の開催に協力して下さったすべての方々のお力添えにより、無事に赤字を出すことなく終えることができました。誠にありがとうございました。

私自身は、1年生の終わりごろに大学祭実行委員会に所属し、



地域の様々なお祭りなどにボランティアとして参加し、地域の様々な企業の方々といろいろなお話をさせていただき、大学祭実行委員会に所属していなければ経験することがなかったであろう様々な経験をさせていただきました。大学祭実行委員会として過ごした日々は、私にとって大きな財産です。

## 秋季大会成績

### 体育会サークル

#### 準硬式野球部

秋季中国リーグ戦・3位

#### 軟式野球部

平成22年度西日本地区学生軟式野球秋季リーグ戦・優勝  
第27回西日本学生軟式野球選抜大会・準優勝

#### 硬式庭球部

全日本大学対抗テニス王座決定試合中国四国地区大会  
男子4部校リーグ・優勝(男子3部校リーグ昇格)

#### ソフトテニス部

北九州・下関地区大学体育大会女子団体・2位  
山口県学生対抗大会女子団体・2位

#### サッカー部

中国2部リーグ・4位

#### 男子バスケットボール部

秋季山口県リーグ・2位

#### 女子バスケットボール部

北九州・下関地区大学体育大会・準優勝

#### 男子バレーボール部

中国大学バレーボールリーグ戦秋季大会(2部リーグ)・優勝  
山口県大学高専学生バレーボール戦秋季大会・2位  
北九州・下関地区大学体育大会・優勝

#### バドミントン部

秋季山口県学生バドミントン大会男子ダブルス・1位(末廣・濱)

北九州・下関地区大学体育大会 男子団体・優勝  
卓球部

新人戦女子団体・3位

#### 陸上部

第44回錦川清流駅伝競走大会・第7位

#### 少林寺拳法部

山口県大会 一般男子級拳士の部・1位 磯田治伸、一般男子初段の部・1位 岩下雄一郎・當田英貴、一般男子二段の部・1位 松本匡史・松岡賢弘、一般男子三段の部・1位 石岡一樹・大塚大、団体演武一般の部・2位  
中国四国大会 団体演武段外の部・1位、運用法の部・優秀賞 磯田治伸・岩下雄一郎・高島佐季・藤田裕香子・田阪優実

#### 紫電流空手道部

北摂空手道選手権大会 青年一般の部・3位 大久保剛

#### 剣道部

北九州・下関地区大学体育大会 個人戦女子・優勝 江口素美恵、2位 吉岡沙恵

#### 空手道部

北九州・下関地区大学体育大会 男子団体組手・2位

### 文化会サークル

#### 吹奏楽部

全日本アンサンブルコンテスト山口県大会 打楽器五重奏・金賞、金管六重奏・銀賞、クラリネット四重奏・銀賞、金管五重奏・銅賞、サキソフォン五重奏・銅賞

## 学生団体新役員紹介

### 学友会執行部

会長 柴 優美(国際商学科3年)  
副会長 村田 宏曹(経済学科3年)  
会計 稲田 雄太(経済学科3年)



### 体育会

会長 岩下 雄一郎(国際商学科3年)  
副会長 竹本 圭佑(経済学科3年)  
書記長 石津 諒太(経済学科3年)



### 文化会

会長 手塚 祐輔(経済学科3年)  
副会長 羽田野 祥平(国際商学科3年)  
書記 田中 李奈(国際商学科2年)



### 大学祭実行委員会

委員長 竹本 賢太(国際商学科2年)  
副委員長 太田 寛人(経済学科2年)



**第3回『食・見・交・群』餃子パーティを開催して**

国際商学科4年 鮫島 武

『食・見・交・群』とは、自主サークル『中国語しゃべっチャイナ』発足の2007年から、中国の冬至に合わせて毎年開催しているパーティです。『食・見・交・群』とは、『餃子を「食」べて、発表や展示品等を見「見」て、参加者と「交」わって「群」れ集まる。』つまり、参加者みんなに五感を使って中国のことを知って頂ける交流会に、僕達が名付けた造語です。

第3回目を迎えた今回は、餃子作りや試食の他に、内モンゴル出身の留学生によるモンゴルダンスの披露や中国語の紙芝居等、参加した皆様に喜んでいただける内容であったと思います。参加した方々に、「こんなに楽しい会なのに、もっと宣伝をした方がいいよ」と喜んで頂きました。今後も「越来越。。。」、少しずつつより良い会にしていきたいと思っています。

改善すべき点は多々あるのですが、皆様に助けて頂きながら、毎回参加者全員に喜んでいただける『食・見・交・群』にしていきたいです。

最後に協力して下さった皆様そして参加して下さいました市民の皆様に感謝の意を中国語で伝えたいと思います。

"非常感謝"



**JASH!!!主催クリスマスパーティー**

国際商学科3年 井上 晴暁



2010年12月22日(水)夜、本学厚生会館談話室に於いて、自主サークルJASH!!!主催のクリスマスパーティーを開催しました。このクリスマスパーティーは今年で3回目を迎え、本学学生、教職員を含む約30人が一足早いクリスマスを楽しみました。クリスマストリビアクイズ、英語によるアイスブレイキング、ピクチャーゲーム等でクリスマスパーティーは盛り上がりました。クリスマスパーティー半ばにはサンタクロースも、ビンゴゲームのプレゼンターとして参加しました。ラストを飾った軽音楽部によるライブは、参加者に熱気と感動を与えました。

このパーティーを企画運営したのは、JASH!!!メンバーの中でもルーキーの渡辺くん、黒崎くん、佐野くんを始めとする1年生達です。本学教職員の皆様のご協力も得て、今年も無事パーティーを成功の元に実施することができました。この場をお借りして協力して下さった皆様に深くお礼申し上げます。

この記事を読んでくださっている皆様も、来年のクリスマスパーティーには是非ご参加下さい。来年も絶対、楽しいパーティーにします!!!

**留学生送別会開催される**

教授 木村 健二

1月21日、国際交流会ともだち主催による、恒例の留学生送別会が開催されました。会には、中国、韓国、トルコ、タイの出身者で、今年3月に大学あるいは大学院を卒業される方、1年間の特別聴講学生、科目等履修生、派遣特任教員、派遣客員研究員などを終える方々が参加されました。外国人留学生との交流を積極的に行っている日本舞踊や日本語を教える会の先生方、そして下関ライオンズクラブ、日中友好協会、国際交流会、山口銀行カスタマーズ・コミュニケーション担当、SCU国際交流会館などから、市民の方々も数多く参加され、国際交流センターによる1年間を振り返るDVDの上映や写真撮影、ビンゴゲームなどで大いに盛り上がり、名残惜しいひとときを過ごしました。韓国東義大学校派遣交換留学生の、いつか世界のどこかの交流の場でまた会いましょうという言葉は印象的でした。



**推薦入学・特別選抜・編入学試験を実施**

2010年11月20日(土)、本学において2011年度推薦入学・帰国子女・社会人特別選抜、第3年次編入学試験を実施しました。

**入試実施結果**

学科	入試	定員	志願者	受験者	合格者	倍率	
経済学科	推薦入試	全国	27	87(84)	87(84)	28(32)	3.1(2.6)
		地域	A	29	56(57)	56(57)	29(34)
	B						
	帰国子女	2	0(1)	0(1)	0(1)	0.0(1.0)	
	社会人	2	0(0)	0(0)	0(0)	0.0(0.0)	
編入学	10	28(36)	26(31)	11(13)	2.4(2.4)		
国際商学科	推薦入試	全国	27	45(72)	45(72)	30(31)	1.5(2.3)
		地域	A	29	43(40)	43(40)	29(34)
	B						
	帰国子女	2	2(0)	2(0)	2(0)	1.0(0.0)	
	社会人	2	0(0)	0(0)	0(0)	0.0(0.0)	
編入学	10	28(21)	25(17)	11(8)	2.3(2.1)		
公共マネジメント学科	推薦入試	全国	7	18(-)	18(-)	9(-)	2.0(-)
		地域	B	8	10(-)	10(-)	7(-)
	帰国子女		1				
	社会人	1	0(-)	0(-)	0(-)	0.0(-)	

## ■第2回 フグシンポジウム

准教授 森 邦恵

平成22年12月11日(土)、下関市立大学学術センター3階にて、第2回フグシンポジウムを開催しました。今回は「生産者からみるフグ業界の現状と今後について」というテーマで、生産者の視点から検証を試みました。会場には、直接生産者の生の声が聴ける貴重な機会と、地元下関のフグ関係者をはじめ、様々な業種の方々に多数お越しいただきました。

第1部では、「養殖フグ生産現場の状況」と題して、道下雅久氏(長崎市たちばな漁業協同組合専務理事)と前田若男氏((社)全国海水養魚協会トラフグ養殖部会・部会長)の2名による講演が行なわれました。道下氏は、組合の再建に尽力された経験から養殖フグのブランド化に向けた活動について、前田氏は淡路島にて3年ものという養殖としては大きめのサイズを扱っている経緯についてお話しされ、どちらも現場の臨場感が伝わる内容でした。

第2部では、フグ市場の今後について、道下氏、前田氏及び本学の佐藤隆准教授(産業組織論)をパネリストに加え、コーディネーター森邦恵で、パネル討論を行ないました。養殖フグの適正な市場メカニズムの構築、東京都で条例規制が緩和された場合の影響、フグは今後大衆魚となってしまうのか、などの議論がなされました。フロアからは、後継者問題について質問も寄せられました。

今回は、生産者の情報を広く市民などに提供する場としての役割を担っていたこともあり、フグ産業研究会としての具体的な政策提言については、更に調査を進めたうえで来年度のシンポジウムにて紹介する予定です。



### 下関市立大学後援会援助規程による表彰

(平成22年3月・平成22年9月)

#### 【各種大会(体育・文化)出場報奨】

- 平成21年度山口県大学高専学生バレーボール戦秋季大会  
男子バレーボール部 第2位
- 平成21年度中国地区大学準硬式野球秋季大会  
準硬式野球部 第1位
- 第44回少林寺拳法中四国学生大会  
女子段外の部 第2位 射場愛美、森 真矢  
組演武男子段外の部 第1位 松本匡史、當田英貴
- 第37回山口県少林寺拳法大会  
組演武 一般男子級拳士の部 第1位 松本匡史、當田英貴  
組演武 一般男子初段の部 第1位 大西智久、桑田俊介  
組演武 一般男子有段の部 第1位 駒寿公子、大塚 大
- 山口県体育大会  
組演武 一般初段の部 第2位 松本匡史、岩下雄一郎  
組演武 一般級拳士の部 第2位 下野 太一、磯田 治伸
- 第56回北九州・下関地区大学体育大会  
硬式庭球部 第1位  
硬式庭球部 男子シングルス 第1位 木島隆裕

- 硬式庭球部 男子ダブルス 第1位 入江・木島
- 硬式庭球部 男子シングルス 第2位 小方 唯史
- 硬式庭球部 男子ダブルス 第2位 小方・静間
- バドミントン部 男子団体 第1位 濱 昂典
- バドミントン部 男子ダブルス 第1位 濱 昂典・末廣 光

#### ●平成21年度山口県秋季学生バドミントン大会

- 男子ダブルス 第2位 濱 昂典・末廣 光

#### ●山口県秋季学生バドミントン大会

- 男子シングルス 第1位 徳永利彦

#### ●第41回中国新人学生卓球選手権大会

- 女子シングルス 第1位 道下知香

#### ●第45回少林寺拳法中国四国学生大会

- 団体演技の部 第1位

- 男子初段の部 第1位 岩下雄一郎、當田英貴

#### ●第38回山口県少林寺拳法大会

- 組演武 一般男子級拳士の部 第1位 松本一樹、磯田治伸

- 第2位 池藤 敬、豊島駿也

#### ●平成22年度春季山口県大学高専学生バレーボールリーグ戦大会

- 男子バレーボール部 第2位

#### ●平成22年度中国地区大学準硬式野球春季リーグ戦

- 準硬式野球部 第一部 第1位

#### ●全日本大学フットサル大会2010山口県大会

- フットサル部 第1位

#### ●全日本大学フットサル大会2010中国地域大会

- フットサル部 第1位

#### ●平成22年度中国四国学生柔道体重別選手権大会

- 柔道部 男子73kg級 第2位 溝淵拓也

#### 【各種資格取得報奨】

##### TOEIC 750点以上

- |       |      |
|-------|------|
| 経済学科  | 石井達也 |
| 国際商学科 | 大賀高文 |
|       | 久保 智 |

##### 簿記検定試験1級

- |       |      |
|-------|------|
| 経済学科  | 徳重秀晃 |
| 国際商学科 | 田村欣之 |

##### 国際連合公用語英語検定試験B級

- |      |      |
|------|------|
| 経済学科 | 江崎翔大 |
|------|------|

##### 韓国語能力試験4級

- |       |      |
|-------|------|
| 国際商学科 | 上利紘子 |
|-------|------|

#### ■行事記録 (2010年12月～2011年2月)

- 12月2日 市大みらいフォーラム
- 4日 集中講義(～5日)
- 11日 TOEFL 試験  
集中講義(～12日)
- 18日 第3回「食・見・交・群」開催
- 25日 冬季休業(～1月5日)
- 1月15日 センター試験(～16日)
- 19日 第6回日本にいながら世界を知ろう
- 21日 留学生送別会
- 22日 特別選抜「中国引揚者等子女」・「外国人留学生」選抜試験
- 28日 卒業論文提出日(31日)
- 2月2日 秋学期定期試験(～10日)
- 5日 鯨資料室シンポジウム
- 20日 TOEFL 試験
- 25日 一般選抜(前期日程)試験